多摩湖パノラマコース

コース概要 ● 約 4.6km　約 6,570 歩　所要時間：約 69 分　消費カロリー：約 207kcal

室町時代建立の豊鹿島神社から、
芋窪緑地遊歩道を上り東大和市内を一望できる絶景ポイントへ
村山上ダムで多摩湖のパノラマを満喫する
多摩湖縦断絶景コース
野球観戦のおりに、ちょっと早く出かけてみては？

❶ 芋窪庚申塔（東大和市指定文化財）

多摩湖内にかつてあった石川村に建っていましたが、村山貯水池建設に伴い芋窪に移されました。

合掌型六臂青面金剛像が陽刻され、上部左右に日月を配し、下部に三猿、その左右に二鶏が陰刻されています。

延宝 8（1680）年造立の銘がある市内最古の庚申塔で、市重宝に指定されています。

庚申信仰とは

「年」と同様「日」にも干支があり、庚申（かのえさる）はその干支の一つで 60 日に一度まわってきます。

庚申の日には、人が寝ている間に、体に巣食っている 3 匹の虫が天に上り、神様にその人間の悪いおこないを告げ口するので、その日は、虫が体から出ないように寝ずにすごし、静かに日が変わるのを待つという信仰がありました。

この信仰は、江戸時代頃から仏様を拝むという信仰に変化していきました。また、江戸時代や明治時代には、信仰の本質は忘れさられ、村人が集まって夜通し眠らないで宴会などをする風習になっていったようです。

❷ 慶性院 （→ P.30 をご参照ください）

❸ 芋窪馬頭観音

江戸時代中期の文化元（1804）年に建立された、高さが約 2 メートルという市内で最大の馬頭観音です。

区画整理や道路拡幅の波に飲み込まれることなく、建立当初からほとんど同じ場所で、人々の悩み・苦しみからの救済や、道中の安全を祈って建っているという貴重な史跡です。

馬頭観音とは

馬頭観音は、サンスクリット語でハヤグリーヴァ＝「馬の首」と呼ばれている観音様です。菩薩の一尊で観音菩薩の変化身の一つであり、いわゆる「六観音」の一尊にも数えられ、馬の頭を頂いて畜生道に迷う人々を救済します。

近世以降は国内の流通が活発化し、馬が移動や荷運びの手段として使われることが多くなり、これに伴い馬が急死した路傍や芝先などに馬頭観音が多く祀られ、動物への供養塔としての意味合いが強くなっていきました。

馬頭観音は怒りの憤怒の形相で表され、馬頭明王と呼ばれることもあります。怒りの激しさによって苦悩や諸悪を粉砕し、災難を取り除くとされています。

❹ はやし堂（東大和市指定文化財）（→ P.30 をご参照ください）

❺ 豊鹿島神社（東京都指定文化財）

慶雲 4（707）年の創建と伝えられ、本殿は室町時代の文正元（1466）年の建立とされています。東京都内に現存する神社本殿建築物の中では最も古く、また都内唯一の室町時代建立になる社殿で、一間社流造、こけら葺、軸部丸柱という建築様式を伝える数少ない遺構として、都有形文化財（建造物）に指定されています。

また、本殿と同時期に作られた木製の狛犬と、江戸後期とされる獅子頭は東大和市の市重宝に指定されています。

Ⓐ 多摩湖自転車歩行者道 （→ P.4 をご参照ください）

❻ 村山上貯水池えん堤

大正 5（1916）年から昭和 2（1927）年の間に建設された多摩湖（村山貯水池）は、上貯水池と下貯水池の二つの貯水池からなっています。

二つの貯水池の間にある村山上貯水池えん堤上からは、自然に囲まれた貯水池の絶景が楽しめます。

❼ 慶性門

多摩湖（村山上貯水池）の西奥にあった慶性院の山門でしたが、村山貯水池の工事の際に、慶性院は芋窪に移転しました。しかし山門は移転されず、元の場所で次第に荒れ果てていったそうです。

昭和 29（1954）年に慶性門の保存が決まり、移転・整備されましたが再び荒廃し、平成 3（1991）年に東大和市により修復され、今日に至っています。

コラム

多摩湖の取水塔

「ダム湖百選」にも選ばれた多摩湖には「日本一美しい」と言われる取水塔があります。

その名のとおり貯水池である多摩湖の水を取水するための施設で、ネオ・ルネッサンス様式で大正 14（1925）年につくられました。

円筒形で上部ドーム型の姿は、訪れる人の心を惹きつけます。